

速度低下が起きるのはどんなところ？：プローブ #01

整理

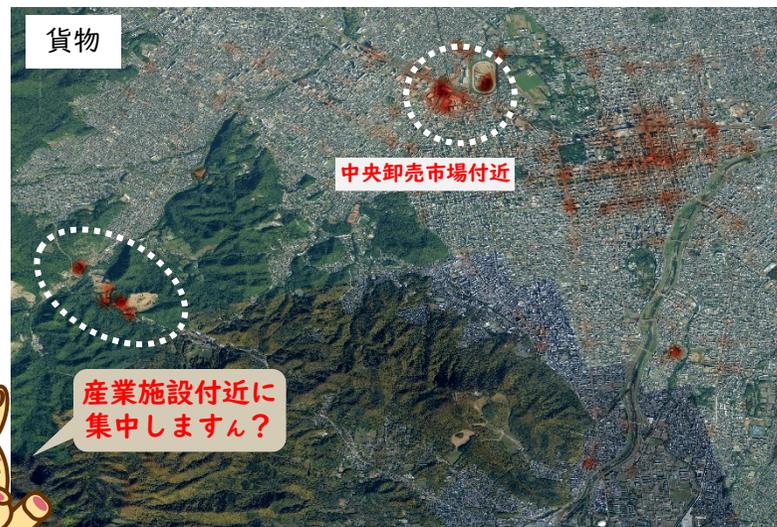
分析

可視

プローブデータは位置と時間を記録した車両の動きの情報を持っています。
ここでは走行速度が遅い座標の集中状況をヒートマップ^(注)を用いることで何が教えてくれるのか…
『車両が10km/h以下の低速走行をしている区間を集計して図化』した結果です。
車両の用途が異なると走行の傾向に違いがあるのか？を把握することが可能なのかを確かめてみました。



ピアード



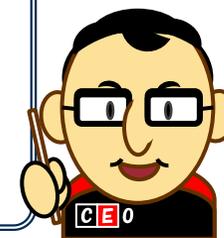
注：ヒートマップ（カーネル密度推定）とは…密度を計算する地点を中心として、任意に指定した検索半径内の点密度を、計算地点からの距離減衰効果による重み付けを伴って計算する手法である。
(Silverman, 1986)



速度が10km/h以下（0km/hは除く）になっている区間の抽出をおこなってみました

- 乗用は市街部エリアで速度低下が多く発生
- 貨物は拠点となりそうな場所を中心に速度が低下
- 乗合はバスターミナル付近に集中しているほか市街部で速度低下が発生

このように用途により速度低下の発生する場所が異なることに気づく事ができるのです。ただし、これはたくさんのデータを積み重ねた結果から導き出す必要があります情報が少ない場合は特定の結果に左右されることがあるので注意が必要です。



瀬尾さん